



2018年11月9日

各 位

会 社 名 n m s ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小野 文明
 (コード：2162 東証 JASDAQ)
 問合せ先 取締役コーポレート本部長 河野 寿子
 (TEL：03-5333-1711 (代表))

平成31年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、平成30年5月14日に公表いたしました平成31年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績において差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 平成31年3月期第2四半期（累計）業績予想と実績の差異

(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 28,500	百万円 400	百万円 500	百万円 350	円 銭 20.39
実 績 値 (B)	27,719	239	220	62	3.66
増 減 額 (B-A)	△781	△161	△280	△288	
増 減 率 (%)	△2.7	△40.3	△56.0	△82.3	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	26,939	596	603	570	33.27

2. 差異の理由

これまで需要の端境期にあったパワーサプライ事業（P S 事業）が、主軸の電源関連製品において新規受注及びその量産立ち上げにより、売上・利益とも回復に転じました。第2四半期に入り、EMS 事業における工作機械関連の受注減速やマレーシアにおける白物家電関連の需要減があったものの、売上高は全体として概ね堅調に推移しました。

営業利益につきましては、ヒューマンソリューション事業（H S 事業）における外国人技能実習生関連受託や、物流3PL受託・テクニカル流通加工事業会社設立による先行投資コスト発生に加え、P S 事業において部材調達難に伴う生産計画後ろ倒し等があり予想を下回りました。

四半期純利益につきましては、営業利益の減に加え、第2四半期に予定していた固定資産売却益の計上が下半期にずれ込んだことにより、予想を下回りました。この資産売却益につきましては、第3四半期に計上する予定です。

通期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）業績につきましては、下期に外国人技能実習生を中心とした、受け入れ・管理業務受託の拡大等が見込まれていることや、P S 事業における生産増加などが計画されており、先行き不透明感があるものの、現段階では、平成30年5月14日公表の業績予想を変更しておりません。今後の事業動向によって、業績予想を見直す必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

以 上

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいているものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。